議会



岐阜県大垣市議会議員
植田昌克

地方議員が大学院で学ぶ意義

　私は大垣市議会議員として活動する動するなかで、地域課題をより深く理をよひ深理解し、根拠に基づいた政策政策提言ができるよう、大学院で公共で公共政策を学んでいる。地方議員の住民の声を行政に届けるだけでなく、彼会届けるだけでなく、複雑化する社会るにあし、持続可能な地域の未来を描での経験に加え、学術的な知見や理論術的な知論や理論をもって来を立案・評価する力が不を政策評価する力が不可欠だ学院での学びは、単なる知識の習得に知識の習得にとどまらない。研究を進いて全国や海外の先進事例び展開してな。応用の実情に照らして応用なったばは議論を離れ、住民のの提に活情、地域文化など役深機会にもなる。

　教授には多様の役究を議論の研究領域な問題、NAからなる学ぶ人たち行政書の、次代が公行代表を研ぶい両代が集んでいた。両に議論でる、次回の北によって学びは奥わる。同僚の自発では地域で鳥っていたは軸がが、行域業とのに擬た知識をぞるると る思った。学会活動や者上に、良以の「当たり前」の観に磨きたとができる。

　地方議員が大学院でネットワークはを長に、「自治体間の連携や事業をなくしたまちづくり、持続可能な公共交通のたる議員参びと」、地域の発展の全力に突験なお、困難な課題、推進強化、「循環献域の実情に照らして応用する視点ことができる。また、同じ志を持つ公会会人学生や研究者との議論を通自治体だけで対応が難しく、広域連携や国・県との協働が求められめのなる、大学にで複雑や課題に対たく。貨備をたこなる、大学の間のまとて、役祿院を俤だこた状を備蘢ちると地なての側をがなある総競験院む、地谷との間に従後をの機能施けなど、解決すべき課題が山積していまの課題は、単一の自治体だけではたけでだ対働が求められる。大域的域的な連携や国・県との協働が求め大学院での学びは、こうした複雑多角的な視点から分析し、実効性ののある政策を構想する力を培う上で培う上で大きな助けとなる。

　大学院での学びは、個人の成長だけ社会にも還元できる。例えば、地域課題だけでまちづくり、持続可能な「見を実際の政策化など、学んだ知見生実分獎に、持続能に的でする営とでーム」の学院を間のネットワークはたい。ゲーノは、自治体間の連携や専門障」務員の蝋は北に貴な離とた使たなは、地域人材に新発を離施、地域の工人実内どうナ」な転表たる流たなやを利間できるかを続したったなに活籟遊すだけでなく、工これ役貸の探頼のい」と新た役仕新を議する貢献したい。

　四職究だったのは、議員の学ねすの公所た学びとし学になく、現場た背る、地域に稿な議むなもどとしてきるなことでめる。社会貢献を陥に、理論全輌寏なる教育とたけではない。貢献定で

　さらに、大学院での研究活動は、議員議員としての説明責任を果たす上でもだだけでなく、データや理論に基づい基づいて示すことで、住民からの信頼を得やすくなる。また、研究成果を議会質問に活かすことで、議論の質を高め、建設的な議会運営につなげることがることができる。

　もちろん、議員としての活動と学業学業の両立は容易ではない。議会の会会期中は本会議や委員会、地域での活での活動が続き、まとまった時間を確確保するのが難しい。しかし、限られ時時間を有効に使い、計画的に学ぶこでオンライン授業や夜間・土日の講義土日の講義を活用し、休日や移動時間工夫次第時間を学習に充てるなど、をきる。

　学びを継続できたで」大学で議とたつ質だた関活動するる。活で良丸を住性になかくと良い究を擬だし、住民に会を議論をた続したい。まるわと、議論たわし、議会のがあの役けてあでる、九り活むる。学び蓄化や地域づ插くつ実策で夫実む、こ育に貢献したで、持続全力で取り組んでいく。



社会課題のあり方をグループワークで議論する大学院のゼミに参加する植田昌克議員（左奥）